



ガイド02【環境】

国営アルプスあづみの公園

北アルプスの山々と安曇野で育まれた豊かな環境と田園文化が楽しめる

約350haの広大な公園
それぞれの地域区に合わせた
テーマで整備

国営アルプスあづみの公園は、長野県北西部、3000m級の山々が連なる北アルプスの山麓にあり、北側の大町・松川地区と南側の堀金・穂高地区の2地区からなる広大な公園です。今年、堀金・穂高地区は開園10周年、大町・松川地区は5周年を迎えました。

それぞれの地区は立地環境によって異なるテーマで整備されているのも、この公園の特徴。北の大町・松川地区は「安曇野総合体験パーク」として、乳川が形成した扇状地上に広がる森林地帯をそのままに、自然環境を学び、体



自然の中の溪流

験することを目的にしています。



溪流ゾーンに入るときはクマよけの鐘を鳴らすのも忘れずに

一方、同地区から南に15km離れた堀金・穂高地区は、安曇野の田園風景を保全・復元し、自然と文化を体験する「安曇野入門体験パーク」。園内には、烏川の氾濫跡の窪地を利用した池(夏季は子ども向けの水上アスレチック)や、烏川に生息する魚を観察したり、農家の旧家など地域の文化を紹介する「あづみの学校」などがあり、安曇野のシンボル・常念岳を目前に眺めながら、農村文化や伝承を体験できます。

「誰のための何のための公園か」を念頭におきながら管理・運営

この広い地域の管理・運営は、管理センター職員だけでなく、地元の人々

のボランティア活動によって成り立っています。公園サポーター(堀金・穂高地区では公園パートナー)は総勢40名。一部の人は公園造成計画のころから携わり「地域の文化を活かし、残していく」という強い思いで臨んでいます。調査設計課長の奈良憲孝は「こんなに地元と密接した公園はないんじゃないか」と言っほど。それぞれ得意としていることや、専門性を活かし、イベントなど、公園づくりに参加しています。

大町・松川地区の公園サポーター浅香公夫さんは、同地区の里山林・扇状地にあるという特色を活かした公園のため、「全国一律的な公園・緑地フィールドであつてはいけない」と言います。「誰のための、何のための公園か」ということを意識しています。運営する側にとつては管理しやすい方が楽ですが、それだと画一的になり特色が出ません。この公園は地元の方々だけではなく、他地域からのお客さまもいらっ

しやいます。この地域の文化や自然を紹介し、体験してもらうために、我々

にとつては大変なこともありませんが、できるだけそのままの状態で見たいと思います」

こつた考えは、サポーターだけでなく、管理センターの職員とも共通認識として持つようにしているそうです。

行きは森の散策路で帰りは空中回廊で視点を変えながら自然観察

実際に、大町・松川地区を浅香さんのガイドで歩きました。

同地区は計画面積255haのうち昨年9月に溪流レクリエーションゾーンがオープン。先にオープンしたセンター



10mの高さから園内を見渡せる空中回廊



大町・松川地区のサポーター浅香さん。「高いところだと木の実もよく見えるでしょ」



大きい! 広い! 楽しい! 国営公園に行こう!

森の散策路で小人がお出迎え



ゾーン、森林レクリエーションゾーンと合わせて104haが利用できます。

森林の散策路を進んで行くと、二ホンアマガエルが足元を飛び跳ね、落ち葉や木の実で地面はフカフカ。やがて、

かわいい小人の人形がお出迎え。そばにはクイズが書かれたボードが。これは小人たちを探しながらクイズに答え、森の奥まで足を運んでもらおう

というサポーターのアイデアとのこと。人形はサポーターの手づくりで、この森で間伐した木が使われています。

途中、「この葉っぱを噛んでみてください」と差し出されたのはコブシの仲間タムシバの葉。恐る恐る口にしてみると噛むたびに甘みを感じます。「タムシバは標高765m〜80mくらいのところに生えているもので、標高の高いこの公園だからこそある植物。こつした特有の植物を紹介しながらガイドしていきます」

また森には大きな石があちこちに。

この地域に多く見られる花崗岩です。「乳川の上流は江戸時代から花崗岩の産地で、園内にも



かつての石切り場の名残り。その形状から舟形岩とも呼ばれる大きな花崗岩

石切り場がありました。通常なら石は撤去するところですが、350年前の里山の歴史をそのままにしているんです」

「草太」



の生息地にもなっているとか。

そのほかにも森にはツキノワグマ、カモシカ、イノシシ、ニホンザルなどさまざまな動物たちが生息。動物たちの行動を妨げないように、園内の柵は、下の部分を大きく空けるなど、公園の中と外を自由に行き来できるようにしています。



「木子」

帰りは「アルプス大平原」から高さ10mの空中回廊で、ヒノキの実やアカマツの松かさか枝についた状態を間近に観察することができます。冬には雪の上を歩いた動物の足跡を見ることがも。視点を変えて、森の動植物の生息を見ることがもいろいろな気づきになるはずと浅香さんは言います。

地域の文化や自然を大事にしながら新しい層に向けた計画も

一方、堀金・穂高地区にも、今年4月に穂高口を含めた田園文化

国営アルプスあづみの公園に行ってみよう!

大町・松川地区の森林ガイドからは、利用者の希望に沿いつつ公園の楽しみ方を気づかせてもらえるかも。

●行き方

電車の場合、2地区とも最寄り駅から離れているのでバスもしくはタクシーを利用。

【大町・松川地区】

▶電車: JR大糸線「信濃大町」駅より周遊バスまたは市民バスで約15〜25分(運行日注意)

▶車: 長野自動車道安曇野I.C. から大町まで国道147号線で約40分

【堀金・穂高地区】

▶電車: JR大糸線「穂高」駅よりあづみ野周遊バスで約13分(運行日注意)

▶車: 長野自動車道安曇野I.C. から約20分

●開園時間

時期により異なります。

10/31までは9:30〜17:00まで(2地区共通)

●入園料

大人(15歳以上) 410円、小人80円、

シルバー(65歳以上) 210円(2地区共通)

●お問い合わせ

堀金・穂高管理センター: 0263-71-5511

大町・松川管理センター: 0261-21-1212

●公園ホームページ

<http://www.azumino.go.jp/>



毎年春に行われる早春賦コンサートの会場にもなる野の休憩所と段々原つば



だんだん池は夏の間は子どもたちが楽しめるウォーターアスレチック場に



テーマ展示館「あづみの学校」は烏川に生息する魚や、園内の生き物を展示するほか、クラフト体験やそば打ち体験などができる

